

山形県・小野川温泉

小野川温泉 河鹿荘

Onogawa-onsen KAJIKA-SOU

〒992-0076 山形県米沢市小野川町2070
TEL: 0238-32-2221



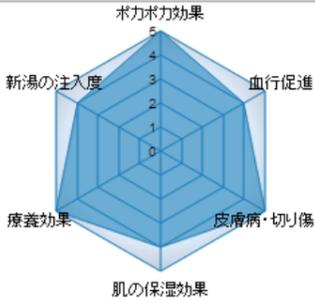
■ 宿データ (※料金は税込)

- 1泊2食料金 ¥15,660 ~
- 1泊朝食料金 ¥7,560 ~ 素泊り -
- 一人泊 ¥17,820 ~
- 宿泊時の貸切風呂料金 無料
- 日帰り ¥500 ~
- 日帰り(個室休憩+昼食) ¥5,650 ~

■ 水素イオン濃度 (pHペーパー)



■ 温泉力 チャート (5段階評価)



◆ 美肌の湯度数 ※最高は4つ星



★美肌効果を期待したい方。オイリースキンの方。冷え性の方。慢性皮膚病にお悩みの方。

◆ こんな人に最適

美肌効果を期待したい方。オイリースキンの方。慢性皮膚病にお悩みの方。冷え性の方。

■ 温泉成分表

湯の色 無色透明 におい 硫黄臭 味 塩味
 溶存物質 (ガス性のものを除く成分①+②+③の合計) 3,780.2mg ※①②の混合泉
 泉温 ①77.6℃ ②35.6℃ pH値 ①6.8 (中性) ②7.5 (弱アルカリ性)
 湧出量 ①不明 ②570リットル/分 ※「河鹿荘」の使用量 約150リットル/分
 一人あたりの温泉利用量 (湧出量/収容人数) 約1.24リットル/人 ※収容人数121人
 温泉の成分 (源泉1kg中に含有する分量): ①②の混合泉

陽イオン	シケラム	ミリモル	シハル%	陰イオン	シケラム	ミリモル	シハル%
ナトリウムイオン(Na ⁺)	889.90	38.71	61.61	フッ素イオン(F ⁻)	2.60	0.14	0.22
カリウムイオン(K ⁺)	114.10	2.92	4.65	塩素イオン(Cl ⁻)	2,123.00	59.88	96.12
マグネシウムイオン(Mg ²⁺)	4.90	0.40	0.64	硫酸イオン(S ²⁻)	<0.1	—	—
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	416.70	20.79	33.06	硫化水素イオン(HS ⁻)	0.70	0.02	0.03
マンガンイオン(Mn ²⁺)	0.40	0.01	0.02	チオ硫酸イオン(S ₂ O ₃ ²⁻)	8.30	0.15	0.24
鉄(II)イオン(Fe ²⁺)	<0.1	—	—	硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	58.10	1.21	1.94
鉄(III)イオン(Fe ³⁺)	<0.1	—	—	炭酸水素イオン(HCO ₃ ⁻)	54.80	0.90	1.44
銅イオン(Cu ²⁺)	<0.1	—	—				
アルミニウムイオン(Al ³⁺)	<0.1	—	—				
計①	1426.00	62.83	99.98	計②	2,247	62.30	99.99
非解離成分	シケラム	ミリモル	溶存物質 ガス成分 を除く	溶存ガス成分	シケラム	ミリモル	成分 総計
メタケイ酸(H ₂ SiO ₃)	100.00	1.28	遊離二酸化炭素(CO ₂) 遊離硫化水素(H ₂ S)	222	0.50	成分 総計	
メタホウ酸(HBO ₂)	7.20	0.16		0.60	0.02		
計③	107.20	1.44	3780.20	計	22.80	0.52	3803.00

その他微量成分

総ヒ素0.4mg/kg、鉛0.05mg/kg未満、総クロム0.05mg/kg未満、カドミウム0.05mg/kg未満、総水銀0.005mg/kg未満

宿よりデータを提供して頂きました。

この泉質ならではの浴用の適応症

糖尿病、慢性婦人病、慢性皮膚病、切り傷、やけど、虚弱児童

その他の浴用の適応症

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進

浴用の禁忌症

皮膚・粘膜の過敏な人や光線過敏症の他、急性疾患(とくに熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性の疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(とくに初期と末期)

飲用の適応症

糖尿病、痛風、慢性便秘、慢性消化器病

飲用の禁忌症

下痢の時、腎臓病、高血圧症、一般にむくみがある時、甲状腺機能亢進症のときヨウ素を含有する温泉は禁忌

分析日

平成21年1月26日分析：(有)ネクスト環境コンサルタント

データ製作
温泉コム株式会社

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-6-2 第2矢木ビル6F
TEL 03-5485-1311 FAX 03-5485-3500
E-MAIL info@onsencom.jp



貸切温泉どっとこむ
http://www.kashikiri-onsen.com/

温泉解説

マイナスイオン豊富な極上の温泉 100%かけ流しと絶品の米沢牛を味わう湯宿

泉質名 含硫黄-ナトリウム・カルシウム-塩化物温泉 ※混合泉
低張性 中性 温泉 (旧泉質名: 含塩化土類・食塩-硫黄泉)

- ①協組4号源泉 含硫黄-ナトリウム・カルシウム-塩化物温泉 低張性 中性 高温泉 (旧泉質名: 含塩化土類・食塩-硫黄泉)
- ②協組5号源泉 含硫黄-ナトリウム・カルシウム-塩化物温泉 低張性 弱アルカリ性 温泉 (旧泉質名: 含塩化土類・食塩-硫黄泉)

■ 源泉の利用状況

加水なし	加温なし	消毒なし	消毒なし	入浴剤なし
○	○	○	○	○

※源泉100%かけ流し

飲泉 「足湯と囲炉裏の休み処」で可能

源泉かけ流し風呂

- 男女別浴場 & 露天風呂 ×2
- 貸切風呂 ×1

源泉率 100% 湯の入替 3~4日に1回

源泉の湧出状況

ボーリングしての掘削 (動力揚湯)

引湯方法

共同源泉(①4号源泉②5号源泉)から引湯

源泉から湯舟までの距離

①70~80m ②100m

温度の調整方法

①77.6℃ ②35.6℃の温泉を混合して調節

◆温泉レポート (文・温泉&宿コンシェルジュ 大竹仁一)

小野川温泉の源泉は、集中管理方式を採用している。

つまり、宿ごとに源泉井戸を掘って、温泉をくみ上げているのではなく、複数の源泉井戸を温泉旅館組合で管理してくみ上げ、各宿に配湯する形をとっているのだ。

現在、小野川温泉で使われているのは、4号源泉と5号源泉の2つで、4号源泉は、ここ「河鹿荘」の隣りにあり、5号源泉は、小野川温泉旅館組合事務所の敷地内にある。

「河鹿荘」は、源泉温度が77℃前後の4号源泉と、低温の5号源泉(約35℃)をブレンドして、正真正銘の「源泉100%かけ流し」にしているのだ。

さて、その混合泉の泉質名は、「含硫黄-ナトリウム・カルシウム-塩化物温泉」(旧泉質名: 含塩化土類・食塩-硫黄泉)。シンプルに表現すれば、美肌効果が高い「硫黄泉」と、切り傷などの消毒効果と、ぽかぽかと温まり湯冷めにくい「塩化物泉」の特徴を併せ持つ。

湯の色は、無色透明ではあるが、ほのかに硫黄臭がする。

「河鹿荘」の「硫黄泉」は、いわゆる硫化水素イオンが主成分の「硫黄型」。

「硫黄泉」に含まれる硫黄分は、余分な皮脂を取り除くので、ニキビや吹き出物が出がちの人にいい。

オイリースキンの人には最適な温泉とされる。

さらには、メラニンを落とす作用もあり、シミが目立たなくなり、美白効果も期待できる。

また、硫黄分は、皮膚にバリアを生成し、紫外線から肌を守る作用もあり、日焼け防止にも役立つ。

これらの作用により「硫黄泉」は、「美肌の湯」と称されるのである。

さらに、浴用では、切り傷、慢性婦人病の他、糖尿病にもいいとされる事から「生活習慣病の湯」とも言われている。もう一方の泉質である「塩化物泉」は、塩分が皮膚に付着し、発汗を抑え、それにより保温効果をもたらす、湯冷めしにくいことから「熱の湯」とも称される。

さらに、消毒・殺菌作用もあるので、切り傷・やけどや、水虫などの慢性皮膚病、また慢性婦人病にいい。

メタケイ酸も豊富で、コラーゲンの生成を助け、肌をツルツルにする作用を持つカルシウムイオンとの相乗効果で、肌のセラミド(細胞間脂質)を整えてくれる。

肌の保湿効果が期待でき、女性にありがたい泉質となっており、「小野小町ゆかりの美人湯」と呼ばれる由縁となっている。また、カルシウムイオンは、血圧を下げ、鎮静効果、いわゆるリラックスさせる効果もあると言われている。

温泉は「浴用」だけでなく、「飲用」でも適応症がある。

「硫黄泉」では、糖尿病、痛風、慢性便秘にいい。

「塩化物泉」でも、同じく慢性便秘の他、慢性消化器病にもいいとされる。

ちなみに、飲用の温泉は、「河鹿荘」の中では、玄関前の「足湯と囲炉裏の休み処」に併設される「飲泉所」でいただく事が出来る。一日にコップ一杯程度を1~2回、空腹時にゆっくりと飲むをお奨めする。

そして、やはり重要な点は、温泉の新鮮度だ。

「河鹿荘」の温泉のブレンド比は、季節によるが、平均すると(4号泉)6:4(5号泉)。

メインの「4号泉」の源泉井戸から大浴場までの距離は、およそ70~80m。「5号泉」にしても、約100m。

まさにベストポジションに大浴場があるのだ。

温泉は、地表から出て、湯舟に注がれる距離や時間によって、徐々に劣化していく。

その点、「河鹿荘」の温泉は、新鮮度も優れているという事が分かる。

「河鹿荘」の温泉「4号と5号の混合泉」の、溶存物質(ガス性の物を除く)は、3,780mg。

ちなみに、「4号泉」の溶存物質は、5,336mg。そして、「5号泉」は、2,945mg。

それらを6:4でブレンドして、さらに湯舟で計った数値が、これだけあるのだから、相当「新鮮で濃い」温泉である事も分かる。

「混合泉」のpH値は、7.1(中性)。「4号泉」は6.8(中性)で、「5号泉」は7.5(弱アルカリ性)。

「硫黄泉」は、強い酸性やアルカリ性にシフトすると、肌が敏感な方には向かない場合もあるが、ここでは弱アルカリ性に近い「中性」の温泉。

低刺激で、小さなお子さんでも安心して湯浴みができる優しい泉質なのだ。

ここで、メインとなる「4号泉」について、もう少し説明すると、数字的なデータからも、素晴らしい泉質だという事が理解できる。

「温泉」の定義というか、「温泉」と判定される項目(基準値)というのがあるが、その1つでも該当すれば、「温泉」とみなされる。

この「小野川温泉4号泉」は、①湯温(77.6℃)~基準値25℃以上、②溶存物質(5,336mg/kg)~基準値1000mg以上、③総硫黄(9.7mg)~基準値1mg以上、④フッ素イオン(2.7mg)~基準値2mg以上、⑤メタホウ酸(8.4mg)~基準値5mg以上、⑥メタケイ酸(119.5mg)~基準値50mg以上・・・と、実に6項目も温泉の基準値をクリアしているのも凄い。

特に、溶存物質の量。「鉱泉分析法指針」によれば、1,000mgあれば療養泉と認められるところ、その基準値の5倍以上の濃さがあるのだ。湯は透明なれど、中身はぎっしりという事なのだ。

このように、温泉分析書だけ見ても、非常に優秀な温泉だということは充分に分かるが、それ以外にも計り知れない力を持つ温泉だと言う専門家も少なくない。

例えば、生活習慣病や老化の主原因といわれる活性酸素を取り除いてくれる「マイナスイオン」の量が国内でも屈指だという。

自然界にあって、滝壺周辺が特に「マイナスイオン」が多いと言われているが、そこでの数は2~3万/ccぐらいのもの。しかし小野川温泉の源泉を計ると、140~160万/cc以上(!)という、とてつもない数字を叩き出したのだ。